

# 公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

## 研修報告書 (2017年度 助成者)

作成日 2017年 9月 3日

氏名 (フリガナ)	鈴木 裕紀子(スズキ ユキコ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2017年8月14日(月)～ 8月19日(土)
大学名	富山大学
学年	5年

今回この研修に参加して、5日間という短い時間にも関わらず想像以上に多くの学びと刺激を得ることができたと思っています。

研修のメインは英語で **Case presentation** をするトレーニングでした。今回は5,6年生対象ということで、病歴聴取に始まり鑑別診断を考えて必要な情報をピックアップしプレゼンする、という過程全てが求められました。私にとっては非常にチャレンジングで最初は不安しかありませんでしたが、ハワイで活躍する日本人医師や医学教育に精通した先生方からのレクチャーや適切なアドバイスを受けて、日に日に成長しているのを感じました。ハワイ大学の医学生に患者役をしてもらい、本場の先生方からマンツーマンでフィードバックいただくという経験は日本では決して得られないもので、ここで吸収したことは無駄にせず更に次のステップに繋げていこうと思っています。

研修で経験したことに加えて、出会った先生方や現地の学生、そして他大学の医学生との人脈も私の宝です。現地の日本人の先生方からは、日本と米国の医療制度・医療水準・医学教育の違いや先生方のキャリアパスをお話いただきました。また、現地の学生とは **case presentation** の練習を通して交流する機会がありました。彼らは1,2年生でしたが既に4年生大学を卒業していることもあり、しっかりとした考えをもち勉強熱心という印象を受けました。また、基礎と臨床が連結した学習をしており、鑑別診断を次々とあげていて米国の先進的な医学教育の影響や現地医学生との実力差を思い知らされました。そして、共に東海大学の寮で過ごし切磋琢磨しあった日本人医学生の存在は非常に刺激的でした。海外志向の人がほとんどで、日頃の実習から将来のキャリアまで有意義な情報交換ができました。6年生は将来の海外留学を視野に入れたマッチングを考えていたり、5年生は海外実習が決まっていたりとして、私も頑張ろうと触発されました。

今後このワークショップに参加される方へのアドバイスとしては、可能なら時差ぼけを解消できるよう前乗りすることと体調管理に十分気を付けることです(慣れない環境で朝から晩まで予定があり、移動も多いので体調を崩しがちです)。あとは、全力で楽しんでください！

最後に、熱心に指導して下さった先生方、私のキャリアの相談に乗ってくれた方々、施設訪問でお世話になった方々に心から御礼申し上げます。また、この貴重なプログラムをコーディネートし成功へと導いてくださったスタッフの皆様、私に様々な気づきを与えてくれた友達、そしてこのワークショップ参加をご支援くださった JANAMEF の皆様にもこの場をお借りして心から感謝申し上げます。